



安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.46 2018.1.9
TEL71-2466

平成30年度安曇野市文化祭

10月13日から11月18日にかけて、各地域で第14回文化祭が開催されました。



穂高

穂高文化祭が、10月26日から11月11日まで、2会場で開催された。

穂高会館会場

11月2日から4日まで「総合美術展」「カラオケ発表会」「芸能まつり」「高齢者作品展」が開催された。総合美術展はアリーナにて、生け花・書道・穂高地域内の小・中高校生による作品・種をまいた先人達の文化を学ぶ会他、計33団体及び個人により展示が行われた。

大きく描かれた牛の絵の前で記念撮影をしていた中村毅良さんは「娘の絵が展示されていると、学校の先生に言われて見に来ました。うれしいです」と話し、絵の作者の穂高西小1年の中村茉莉さんは、はにかんだ笑顔を見せてくれた。呈茶席は2日が裏千家安曇野会、3日が煎茶道方円流穂高会、



4日は茶道裏千家静和会西川教室がそれぞれ担当し、来場者をもてなした。また、きもの愛好会は3日、4日と着付けのデモンストレーションを行った。講堂では、2日にカラオケ発表会、3日に芸

能まつり第一部、4日に芸能まつり第二部が催された。カラオケ発表会では49組51人の出演者が装いも美しく歌声を響かせ、観客も聞き入った。出演者の1人は「毎年文化祭に出る度に1曲ずつ覚えていく」と話していた。芸能まつり第一部では、詩吟・歌謡吟詠・ダンス等36団体が出演した。芸能まつり第二部では、コーラス・和太鼓・吹奏楽など13団体により演奏が行われた。



高齢者作品展会場には、写真・絵画・クラフト作品などが所狭しと並べられた。コソコソと手間をかけて作られたものが多く、来場者の目を引いた。

穂高神社会場

境内では10月26日から10月28日まで「盆栽・山野草展」、10月27日から11月11日まで「あづみ野菊花展」が行われた。特に、11月3日、4日は「信州安曇野 新そばと食の感謝祭・農林業まつり」と重なったため、盛況であった。(春海)

豊科

豊科地域文化祭が、11月1日から18日まで、3会場で開催された。

豊科交流学習センター「きぼう」会場

11月1日から4日まで開催された「菊花展」は、昨年より展示時期を遅らせたため花が見ごろであった。3日と4日は「華道展」「茶会」が開催され、大勢の来場者にぎわった。



豊科公民館会場

11月3日の「芸能発表会」は、24団体388人が発表を行い、延べ1200人の来場者があった。特に小・中学校の吹奏楽や合唱の発表時には、客席に家族連れの姿が目立ち、会場が盛り上がった。同時にホワイエでは盆栽展が行われた。茶会も開かれ多くの来場者に抹茶が振舞われた。11月9日から11日まで「美術・

書道・一般作品展」が行われた。昨年より日数は短縮されたが、多くの作品が出品され見ごたえがあった。



短歌大会・俳句大会

11月17日に「短歌大会」が、翌18日に「俳句大会」が開催された。俳句大会は、ジュニアの部もあり1017人の小・中学生、高校生から句が寄せられた。後継者の育成も図られている。



豊科郷土博物館会場

豊科公民館会場と同じく11月9日から11日まで、絵画・書道・彫塑等が展示された。昨年同様、小・中学生の書道作品も多く、将来が楽しみである。(宏雲)

明科

明科地域文化祭が、11月2日から4日まで、明科公民館で開催された。錦秋の山並みと玄関前に飾られた菊が、文化祭の風情を醸し出していた。



1階ホールでは、色鮮やかなアメリカンフラワーと水墨画・書の掛け軸や仏像彫刻など繊細な技の深さが、対比をなすように目を引いた。1階・2階の各ブースでは、絵画・木彫・編み物・着物・押花絵、地域のサークルの活動報告などが数多く展示され、まじまじ眺め入る姿もあった。

11月3日は、明科いいまちづくりukai!!の写真コンテスト表彰式を皮切りに「お楽しみサロン」が開催され、えべやほっこりるーむでは、バザーや茶会、新商品の販売などさまざまな見せ方をしていた。講堂では、明科高校吹奏楽部の演奏の後、特別コンサートとしてピアノニストの古幡諒さんを迎えて、プロコフィエフの「ピアノソナタ」やリストの「巡礼の年」などのピアノ曲が響き渡った。



午後には、歌の朗読、親子のピアノ、「明科音頭」や「豊科調安曇節」の舞踊・和太鼓が披露され、安曇野ひろしさんによる華麗なるマジックショーで締めくくられた。

この日来館した60代の木村勝馬・京子夫妻は「知人の誘いで前橋から明科まで、車で紅葉を楽しみながら一般道を走って来た。文化祭の展示作品はどれも洗練されていて、大変良い作品が多く感心した。夫婦でピアノコンサートを聴いている間、息子は駐車場で運転休憩もできた。スタンプラリーの景品ももらえて何より」と、微笑みながら文化祭でのひとときを語った。11月4日には、正面玄関に消防車が展示され、親子連れの喜ぶ姿が見られた。「芸能発表会」は、明北小学校と明南小学校の金管バンド演奏から始まり、オカリナ、よさこい、手話ダンスなどの演目が次々と披露され、市消防団音楽喇叭隊喇叭部によるアルペンファンファーレで閉会した。出演者の家族や友人の来場もあり、にぎやかな最終日となった。(静流)

三郷

三郷祭が、10月13日から11月3日まで、2会場で開催された。10月13日・14日は、三郷公民館と三郷交流学習センター「ゆりのき」で「文化産業展」が開催された。



「ゆりのき」のロビーで開催された写真展は、多くの作品が心を和ませた。ロビーは、この後「菊花展」の展示会場となり、愛らしい菊が目を楽しませた。公民館の講堂にはクラブや団体・個人の作品とともに、三郷小・中学校や友好都市の作品も展示された。各種の美術・工芸・書・生け花等多くの芸術作品や三郷郷土研究会研究成果など力作がそろった。盆栽と三郷昆虫クラブは一室ずつ使用し、作品や蝶の標本、写真パネルを並べ展示した。

10月20日に三郷中学校講堂で「ふれあいコンサート」が開催され、三郷小・中学校の吹奏楽部・合唱部をはじめ、コーラス、マリオンバ、コカリナ、管楽器等12の団体が熱演を披露した。最後に「信濃の国」を会場全体で合唱した。11月3日には三郷公民館講堂で「芸能発表会」が開催された。「三郷音頭保存会」「上長尾獅子舞保

存会」「三郷義民太鼓保存会」は、保存会として伝統芸能を引き継ぎ、成果を披露した。また、文化箏しゃくなげ会、和楽器を楽しむ会の琴・尺八、ハーモニカ同好会、歌謡の日本ふるさととうたの会の演奏は、聴く人の心を躍らせた。さらに、三郷武術太極拳同好会の演舞、縁側処だいたい「すく出し箱」のリズム体操、三郷健康体操クラブの市歌の体操、「みさと男女共生社会づくり会議」のペープサート劇等見る人を楽しました。



公民館講座から発足したフラダンスサークル2団体、社交ダンスクラブ・スイングに続き、ジュニアダンスおひさま隊が大人顔負けの社交ダンスを披露した。林晴会、

しのお会、豊扇会の舞踊があり、小学生の小扇会の舞踊が来場者の目を引き付けた。(東山路)



堀金

堀金文化祭が、10月26日から11月4日まで、堀金総合体育館を主会場に開催された。



10月26日から28日の3日間は「作品展示」が行われ、各地区公民館の手芸講習会作品、小中学校やこども園の作品、堀金地域の個人や団体の作品など数多く並んだ。

10月27日の午前中に開催された「まどいの広場」では、堀金小学校金管バンド部、堀金中学校吹奏楽部、堀金中学校常念太鼓クラブ「赤鬼塾」が出演し、真剣に取り組む姿があり、演奏者と多くの観客が一体となり会場が盛り上がった。

10月27日の午後には「芸能祭」が行われた。コーラス・詩吟・民謡・太極拳・舞踊・フラダンス・太鼓・楽器演奏・ダンス・合唱・文化箏・大正琴・ペープサート劇と各部門で常日頃の練習の成果を思う存分に発



揮し、多くの観客の方々に感動を与えた。今年は、実行委員の要望から、休憩時間に堀金村時代の踊りを復活させようと「堀金音頭」を踊る一コマもあった。

10月28日には「常念フェスティバル」が、常念ドームと隣接の堀金中央公園で行われた。出展体験エリアでは、フリーマーケットやクラフト製品の制作・販売、南安曇農業高校生徒による動物の触れ合い広場、農産物販売など50店舗ほどが参加した。読み聞かせと紙芝居や「子ども食堂」で子供の居場所の設定、堀金公民館の「男の酒肴講座」による「そば粉のクレープ」の無料サービスなどが実施された。パフォーマンス広場では、空手道の

演武、津軽三味線・スコップ三味線・音楽団やマリリンバの演奏、シンガーソングライターの出演があった。また、仮装行列には8組75人の参加があり、最後のアトラクションの「チャレンジ！常念ギネスに挑戦」では、参加者の多くが参加して「お玉のピンポンリレー」を行い一丸となり盛り上がった。



11月4日に開催された「堀金一周駅伝」では、全9地区を牽引する地区公民館対抗で、5人が区間賞の倉田が優勝、2位が田多井、3位が中堀であった。(東山路)

プレミアムフライデーコンサート

明科公民館講堂で、11月30日プレミアムフライデーコンサートが開催された。今年度3回目を迎えるこのコンサートには、箏と尺八 幽玄への誘いと題して、箏を生田流正派大師範の有賀雅栄さん・小澤雅美穂さん、尺八は琴古流尺八 竹友社師範の原靖堂さんが出演した。3人は共に高校時代の同窓生というナレーションも入り、息の合った音色で「楓の花」「光のしづく」「ポ



ピュラーソングメドレー」などが演奏された。

来場者約60人は、古風な音の響きに耳を傾け、休憩時には用意されたショートケーキとお茶で歓談に花を咲かせ、師走目前の午後のひとときを感慨深そうに味わっていた。

明科公民館での催し物を毎回楽しみに来ているという70代女性は「今年は、明科公民館でたくさん楽しむ機会を頂きました。いつも良い企画をありがとうございます。12月のクリスマスコンサートも楽しみにしています」と笑顔いっぱい、会場を後にした。(静流)



擗

平和の掛け声も世界のきな臭い動きにかき消されてきたが、しばらく小康状態を保っているような気配が伺える◆そんなさなか、毎日訓練なのか夜空に複数の航空機の光が点滅し、夜間飛行の音がいつとき星座探索のロマンを阻む◆初老の爺が、寒空に冬の星座を見上げている絵面の方が危うさがある昨今かもしれない◆市松模様のオリピックシンボルマークを印刷した自動車のナンバープレートが売りに出されている◆平和のシンボルと言われるオリピックに、いっと

きの愛国心で普段は見知らぬスポーツに世間並みの声援を送る◆ルールを知らない競技そのものより自国選手の活躍に一喜一憂してミィハーを楽しむ◆競技場での観戦が本物で報道媒体の視聴は疑似体験かなどと論じることもないが、イベントは報道そのものに主眼が置かれることもある◆いつときの出来事は、ひとたび過ぎ去れば記憶の中で色あせていくものだが、今の世のことは利那のものがたりで片付けたくはないものだ。

(T・Y)